

8月30日(土)から9月5日(金) は防災週間です

三春ダム管理所では9月1日(月)に総合防災訓練を行いました。

この訓練は、大規模災害に迅速かつ適切に対応できるよう災害に関する情報の伝達訓練、施設点検を行い、防災意識の高揚、防災知識の普及、防災体制の整備等を推進して公共の安全に資することを目的としています。

当日は、9時24分福島県中通りで震度5強の地震が起こったと想定して、三春ダムでは災害対策支部の設置から始まり、本部への第一報伝達、ダム堤体、庁舎、巡視船による貯水池周辺の法面、ダム周辺施設、電気・機械設備の点検にかかりました。各点検箇所から支部への報告、被災の報告



を受けて復旧計画を策定するなどの内容で行いました。

訓練終了後の反省会では、大規模災害時に予想される停電の場面での

対応を考える必要があるという意見が出され、後日所内において電源がない場合の堤体点検は、どれくらいの時間を要するのか実際に訓練を行ってみることにしました。

無事故無災害継続を目指して

8月6日(水)、平成15年度三春ダム管理所事故防止対策協議会が開催されました。



はじめに大類管理所長から、現場の体制、評価についての講話と平成14年度の地方整備局管内の労働災害発生状況についての説明がありました。

次に、平成14年度の活動報告と平成15年度の活動計画の提案があり、それぞれ承認されました。続いて、郡山労働基準監督署の近藤課長より、今年の労働災害の発生状況について、説明して頂きました。また三春警察署の齋藤課長からは、交通事故に関する講話を頂きました。

事故や災害は、日頃の心構えが大切です。今年度も昨年と同様、無事故で1年を過ごせるように、職員や、請負業者の方々のご協力をお願い致します。

大類所長を講師に自然災害についての勉強会を開催しました

8月7日(木)管理所会議室において、管理所職員の見識を広めるための内部勉強会を、大類所長を講師に開催いたしました。

はじめに、長野県の姫川砂防を例に砂防事業についての最近の技術的な話題について、続いて、北海道の有珠山や三原山などの噴火災害と雪崩災害についての講話がありました。



最近の砂防ダムの考え方としては、下流が必要としている土砂を供給する事を目的とし、従来の全量を貯めるものではなく、スリットが入っているダムが増えてきているという事でした。

噴火災害についての話では、大きく湾曲してしまった線路や噴石により破壊された建物、厚く堆積した火山灰などについて写真を見ながら説明があり、このような大規模な自然災害に対して私達はいかに無力か実感させられました。しかしその後の復旧作業の様子は、被害にあった人達が1日でも早く普通の生活に戻れるようにと努力しているさまが感じられるものでした。

今後もこのような勉強会を通して、見識を広め今後の業務に生かしていきたいと考えています。

シリーズ 「私のふるさと紹介」

私が生まれ育ち、これからも住み続ける尾花沢市は、山形市の約50km北側に位置する豪雪地帯で、現在過疎化が進み人口は約21,700人、世帯数は約5,800で少子高齢化が進んでいるところです。

江戸時代初期は羽州街道の宿場町で、政治・経済の中心地として栄えた天領で、北限の代官所が置かれていたところであり、また「おくのほそ道」で有名な松尾芭蕉が10泊したところでもあります。

尾花沢市の中心地には、芭蕉と親しく紅花大尽として名高い豪商鈴木清風の出身地で、芭蕉・清風関係の資料や当地方の歴史的資料や俳諧資料等を収集した「芭蕉・清風歴史資料館」があります。また、市の中心地から東へ車で30分程度走ると、1,600年代初期に栄えた国指定史跡延沢銀山があります。最盛期には諸国から多数



銀山廃鉱

の人々が集まり、文献によれば鉱山周辺では約2万人の人口があったと見られる。その後湧水に悩まされ次第に

衰退し、1700年代初頭には人口約270人まで減少し、湯治場と僅かな田畑で生計をたてていた。現在は、廃鉱にも遊歩道が整備され当時の面影を偲ぶことができ、銀山温泉から徒歩10分程で行くことができます。



銀山温泉

【山形県・尾花沢市】の巻 大類 正法

一方、市では「雪とスイカと花笠のまち」をテーマに市民と一緒に街づくりに取り組んでおりますが、雪・スイカ・花笠について述べて見たいと思います。

雪は、飛騨の高山、越後の高田、出羽の尾花沢が日本三雪として知られており、山形の民謡である花笠音頭にも「雪を眺むる尾花沢」と唄われるとおり特に雪景の美しさがあります。現在は利雪・克雪に取り組む市では夏の冷房にも活用しております。

スイカは、尾花沢盆地特有の気候がスイカ栽培に適し市内各地で栽培され、主に名古屋以東に出荷しており、特に甘さでは定評があります。



また、今年は1個114kgのジャンボスイカを育てた人もおります。

花笠は、大正時代に周囲4kmの人造湖である徳良湖を築造したときの土突き唄が花笠音頭の元唄、そのときの祝い踊りが花笠踊りであり、毎年山形の夏祭りとして定着した花笠祭りの発祥の地であります。現在徳良湖周辺はグランドゴルフ、オートキャンプ場、ガラス細工の体験できる工房等、憩いの場として市民に利用されております。

皆さん、一度といわず是非尾花沢市にいらしてください。



徳良湖

シリーズ さくら湖周辺をあるこう③

いよいよ、3回目です。今回は三春ダム管理所から少し離れて、蛇石橋→こもれびの丘→滝の平野外劇場→謎の半島（名称不明）→滝桜というコースです。

① **START**
入り口です

② 道中はこんな感じです。湖面がキラキラきれいだなー

③ 林をぬけてこもれびの丘へ

④ こもれびの丘からは吉田大橋が見えるはずですが・・・

⑤ 滝の平野外劇場です

⑥ かつての舞台。夢の跡

⑦ 客席からの眺めよし

⑧ 謎の半島に向かい 階段を下る

⑨ 島の先端までは柵があるので行けない・・・

⑩ 滝桜に向かいます

⑪ 稲荷神社でお参りだ

⑫ 滝桜に到着

特別天然記念物滝桜

GOAL

滝桜が咲く頃は、たくさんの人でにぎわうのよ。

今回のルートは管理所から離れている事もあり、私自身初めて行きました。いつも、思う事ですが、「こんな所あるんだー」って感じです。コース自体は整備が行き届いているので、快適に散策を楽しめます。滝桜を見に行く機会があれば、ぜひ行って下さい。



ミーちゃん&ハル君の ちよつとからくち 三春ダム



今年は大きな洪水もなくて、ダムでも洪水調節もなくていいから迷惑だぞー。しかもダムの計画では、100年に1回の洪水が対象だから余裕だぞ。

ハルくん「100年に1回の洪水」というのは「100年に1回しか起きない」ということではないんだよ。もっと正確にいうと、100年に1回はこれ以上の洪水が起きる可能性がありますよ、ということなんだ。



佐々木水質係長



よく分からなけれど、一体
どういふ意味なの？？？

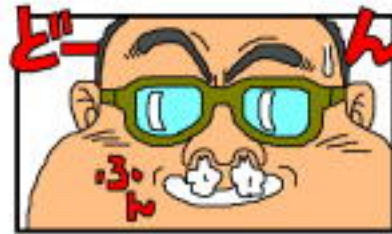


確率の話なら線玉遊戯で假えた機から説明しよう！

まず赤玉1個と白玉99個の合わせて100個を中身が分からない袋に入れたとするよ。ここから1コだけ玉を取り出して色を確認する。取り出した玉を、また袋の中に入れて100個に

水質係の西原さん する。そしてまた1コだけ取り出す。この作業を延々と繰り返して行くと、赤玉を100回取り出すためには約1万回の作業が必要になるんだ。これが1回赤玉を取り出すには...

100回の赤玉を1万回取ったら、10回で千回、1回で百回かぞー？



そのとおり！！「100年に1回の洪水」はこの赤玉を取り出す事と同じなんだ。でも実際にこの作業をやってみると、ある時は50回目位で

大当たりを引いたり、200回やっても大当たりを引けない事があるんだよ！

大当たり？？何か違う話になってきたぞー...

失礼しました。こい趣味の話に...。つまり、100年おきに起こると言う事ではなく、もっと短い間隔で起きるかもしれないし、もっと長い間隔で起きるかもしれない。平均して100年に1回くらい起きるといふことなんだ。

ぞれじゃあ、去年の7月に阿武隈川であった洪水が55年に1回の洪水だと聞いたけど、今後55年の間にまたあの位の洪水が起きるかもしれないんだね！？



十分気をつけななな！

ちなみに100分の1の洪水が100年間に1回起こる確率は6.3%、50年に1回起こる確率は4.0%もあるんだ。逆に200年間に1回しか起きない確率は1.3%位あるよ。そういえばこの間も確率の4倍近く回したけど大当たりしなかったぞー。



...大当たりはともかく、みんなもこのコーナーで聞いてみたい疑問とか疑問を三春ダムの人に聞いてみよう！

資料館からのお知らせ

「さくら湖自然教室2003写真展」は、引き続き資料館（1階）で行われています。

また展示ギャラリー（1階）では、皆さんの作品などを随時募集しています。

さくら湖自然教室 2003
の写真はホームページでも紹介しているから、みんな見てね！

自然観察ステーションからのお知らせ

- 9月12日（金）、20（土）、26日（金） 星を見る会
- 9月23日（火） キノコの観察会
- 9月28日（日） 秋の昆虫観察会

各教室の詳細な内容などについては、自然観察ステーション（0247-61-1546）までお問い合わせ下さい。



編集後記

今年の夏は、昨年のような大きな出水もなかった代わりに、天候が不順で、キラキラ輝く太陽にお目にかかれた日も少なかったように思われます。さくら湖では例年今頃の季節は、アオコが大量に発生しているはずですが、低温や低日射量のおかげで、今年はかなり少なめの発生で済みそうです。出水やアオコ大発生心配が無いのはよいのですが、逆にニュース性のある出来事が少なく、誌面もシリーズもののスペースが多くなってしまいました。シリーズのネタもそろそろ尽きてきそうなので、編集担当としては何か大きな出来事が起きないかと考えてしまう今日この頃です（ただし平和なことに限る!!）。（佐々木）

編集・発行

国土交通省
東北地方整備局
三春ダム管理所

皆様からのご意見・ご質問や
情報の提供をお待ちしています。



〒963-7722 福島県田村郡三春町大字
西方字中ノ内403-4
TEL 0247-62-3145 FAX 0247-62-3170

ホームページ

<http://www.thr.mlit.go.jp/miharu>